

## オイシックス・ラ・大地株式会社



オイシックス・ラ・大地（株）は、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続的な食料システム、特に「食料消費の持続可能性」「環境に調和した農林水産業の推進」「質・量両面にわたる食料安全保障」の実現に貢献するため、サプライチェーン全体で食品廃棄物の削減や温室効果ガス排出量の削減に取り組み、食の社会課題を解くことで、持続可能な社会をつくり、食のこれからをつくり、ひろげていきます。持続可能な社会の実現に貢献します。

### 【具体的な取組・目標(コミットメント)】

「食料消費の持続可能性」の実現にむけて

- ・川上（畑）：アップサイクル食品やふぞろいの青果品などの販売促進を通じ、新たな価値を提案することで畑のフードロス削減を推進します
- ・川中（流通）：一般小売では約5%の廃棄率に対し、当社は現在のロス率約0.2%のゼロ化を目指します
- ・川下（家庭）：家庭での食材廃棄が約1 / 3となるKit Oisixの販売拡大を通じて、家庭でのフードロス削減を推進します

「環境に調和した農林水産業の推進」の実現にむけて

- ・有機食材宅配のパイオニアとして、当社の更なる事業拡大を通じた有機農産物の生産・流通拡大を推進します
- ・農業生産において、温室効果ガス排出量を2025年までに50%削減を目指します（FY2020比）
- ・2025年までに、当社取り扱い商品の包装を50%以上環境対応素材へ変更します（FY2020比）

「質・量両面にわたる食料安全保障」の実現にむけて

- ・食品を無償支援するプラットフォーム「WeSupport」の運営を通じ、ひとり親を中心とした子どもがいる貧困世帯の食の課題と、企業の食品ロスの課題との同時解決を推進します

### 【関連情報】

オイシックス・ラ・大地 グリーンシフト施策 <https://www.oisixradaichi.co.jp/sustainability/environment/green/>

オイシックス・ラ・大地 環境負荷の低減 <https://www.oisixradaichi.co.jp/sustainability/environment/reduction/>

WeSupport事務局 <https://wesupport.jp/>

*Oisix ra daichi*



## カゴメ株式会社



カゴメ株式会社は、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、  
持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために  
開催されるFSSへの支持を表明します。

### 【具体的な取組・目標(コミットメント)】

1. 野菜をとることの大切さや上手な野菜のとり方の普及に努め、  
健康的な食生活に貢献します。本活動により野菜摂取の需要を高めることで、  
農業振興・地方創生に貢献します。(右:当社が広める野菜摂取推進ロゴ)
2. 環境に優しい事業活動を推進します。



- ①CO<sub>2</sub>排出量を2030年までに20%削減、2050年までに50%削減します。(2016年対比)

この目標はパリ協定の「2℃目標」に則って策定したのですが、今後はSBTの基準「1.5℃目標」に  
即した削減目標を策定する計画です。

- ②飲料ペットボトルは2030年までに、樹脂使用量全体の50%以上を、  
リサイクル素材又は植物由来素材とします。
- ③紙容器飲料は2030年までに、石油由来素材のストローの使用をゼロとし、  
資源循環可能な素材(植物由来素材や紙素材等)へ置き換えます。
- ④日本国内食品廃棄量を2030年までに50%削減します。(2018年対比)

## カルビー株式会社

掘りだそう、自然の力。

**Calbee**



カルビー株式会社は、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続的な食料システム、特に「環境に調和した農業の推進」および「農村地域の収入確保」の実現に貢献するため、環境に配慮した持続的な調達、温室効果ガス排出量・水使用量・フードロス削減に取り組みます。

### 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

#### 1. 環境に配慮した持続的な調達（テーマ3, 4）

- ① **馬鈴しょの安定調達** 2024年3月期国産馬鈴しょ調達量40万t（2019年3月比20%増）  
「気候変動への対応と病害抵抗性品種の開発、コントラクター事業による農業の省力化」
- ② **認証パーム油の使用** 2030年 認証パーム油100%使用

#### 2. 地球環境への配慮（テーマ3）（全て2019年3月期比）

- ① **温室効果ガス排出量削減** 2030年排出量30%削減（Scope1, 2, 3 トータル）
- ② **製品フードロス削減** 2024年3月期20%削減
- ③ **水の使用量削減** 2030年10%削減
- ④ **廃棄物排出量削減** 2030年10%削減

【関連情報】 カルビーグループのマテリアリティ <https://www.calbee.co.jp/csr/materiality/>

## キッコーマン株式会社



キッコーマン(株)は、当社経営理念を実践するため、SDGsの達成に貢献することをめざした活動をすすめており、食料システムサミットへの支持を表明します。当社は、持続的な食料システム、特に「自然に対してポジティブな生産を促進」の実現に貢献するため、「キッコーマングループ長期環境ビジョン」に基づき、以下の目標実現に向けて取り組みます。

- |       |   |
|-------|---|
| 気候変動  | 1. CO <sub>2</sub> 排出量を2030年度までに2018年度比30%以上削減                                      |
| 食の環境  | 1. 水の使用原単位を2030年度までに2011年度比30%以上削減<br>2. 排水法規制よりも高い自主基準値の達成維持<br>3. 持続可能な調達体制の構築と推進 |
| 資源の活用 | 1. 製造や流通段階での廃棄物削減<br>2. 再資源化率 100%<br>3. バリューチェーンを通じた環境配慮型商品の展開                     |

### 【関連情報】

キッコーマングループ 長期環境ビジョン

<https://www.kikkoman.com/jp/csr/environment/longterm.html>

キューピー株式会社

kewpie 



キューピーグループは、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。「食料消費の持続可能性」「自然にポジティブな生産」の実現に貢献するため、キューピーグループとして定めたサステナビリティに向けた重点課題に基づき、「食と健康への貢献」「資源の有効活用・循環」「気候変動への対応」に取り組みます。

【具体的な取組・目標（コミットメント）】 数値は2030年までの目標

## 社会「食と健康への貢献」

### ①健康寿命延伸への貢献

- ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献
- ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進

### ②子どもの心と体の健康支援

- ・食育活動等を通じて100万人以上の子どもの笑顔を創出

## 地球環境「資源の有効活用・循環、気候変動への対応」

### ①グループで利用する主要な野菜の未利用部について90%以上を有効活用

### ②商品廃棄量を50%以上削減（2015年度比）

### ③プラスチック排出量を30%以上削減（2018年度比）

### ④CO2排出量を35%以上削減（2013年度比）

## 【関連情報】

サステナビリティサイト <https://www.kewpie.com/sustainability/>



## 株式会社 極洋（キョクヨーグループ）



キョクヨーグループは、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

キョクヨーグループは、持続的な食料システム、特に「自然に対してポジティブな生産を十分な規模で促進」や、「全ての人に安全で栄養価の高い食料へのアクセスを確保」、「食料消費の持続可能性」に取り組みます。

### 【具体的な取組①】

「自然に対してポジティブな生産を十分な規模で促進」するために・・・

「MSC」や「ASC」など水産エコラベル付き製品の取扱い拡大を推進します

当社グループは生物多様性の保全に貢献すべく、MSCやASC認証水産物の取扱い拡大に取り組みます。

加工・流通業者としての認証を取得し、現在の扱い魚種は

MSCが35魚種、ASCが7魚種となっています。（2021年4月現在）

### 【関連情報】

キョクヨーグループ HP <https://www.kyokuyo.co.jp/index.html>

MSC ジャパン HP <https://www.msc.org/jp/>

ASC ジャパン HP <https://www.asc-aqua.org/ja/>



## 株式会社 極洋（キョクヨーグループ）



### 【具体的な取組②】

「全ての人に安全で栄養価の高い食料へのアクセスを確保」し、  
「食料消費の持続可能性」に貢献するために・・・  
健康に配慮した「かるしお認定商品」の開発・販売を推進します。

かるしお認定とは…

循環器病予防のための食生活改善を目的に「塩を軽く使って美味しさを引き出す減塩の新しい考え方」を広めるための国立循環器病研究センターの取組みです。

キョクヨーグループは、この趣旨に賛同し認定商品の開発と販売を推進します。

### 【「かるしお」認定を受けているキョクヨー製品（2021年4月時点）】

- ・ スモークサーモンラウト市販用かるしお（右 写真）
- ・ かるしお白鮭F昆布エキス配合    ・ かるしお銀鮭F昆布エキス配合

### 【関連情報】

国立循環器病研究センター かるしおプロジェクト

<http://www.ncvc.go.jp/karushio/>

キョクヨーグループ HP

<https://www.kyokuyo.co.jp/index.html>



## キリンホールディングス株式会社



キリングroupは、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続的な食料システム、特に「環境に調和した農業の推進」の実現に貢献するため、持続可能な生物資源の利用に取り組みます。

### 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

- ①2025年末までに、スリランカの小規模紅茶農園10,000農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、以後も支援を継続します。
- ②2021年末までに、ベトナムの小規模コーヒー農園700農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、以後も支援を継続します。
- ③2020年にキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンが達成した、紙容器FSC認証紙使用比率100%を、海外を含めたグループ企業全体に拡大していきます。
- ④全てのパーム油について、今後も継続して、持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）が承認する方法で調達します。

### 【関連情報】

キリングroup環境ビジョン2050

[https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0210\\_01.html](https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0210_01.html)

## クックパッド株式会社



クックパッド株式会社は、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続的な食料システム、特に「食料消費の持続可能性」「食料システムの強靱化」の実現に貢献するため、料理を通じて世界に起こっている食の課題に対し、自らが意識をもち、自らが選択をしていくことができる生活者を増やしていくことに取り組みます。

### 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

- ① 世界100か国に対しコミュニティを展開することで料理を作る人、料理を楽しむ人を増やしていきます。
- ② 中・高校での食を通じた社会課題、環境問題を学ぶ授業などを通じた食育をすすめていきます
- ③ 食におけるバリュー・チェーンの多様化を応援します。

### 【関連情報】

World Cooking Index（料理頻度の計測）

<https://worldcookingindex.com/>

クックパッド学び支援（食育の取り組み）

<https://education.cookpad.jp/>





クボタは、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

For Earth, For Life をブランドステートメントとして掲げる当社は、持続可能な食料システム、特に「環境に調和した農業の推進」と「食料システムの強靱化」の実現に貢献するため、2050年に向け「カーボンニュートラル」と「循環型食料生産システムの実現」に取り組みます。

## 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

- ①製品の生産や使用の過程で排出されるCO2削減と農業分野からの温室効果ガス排出抑制による、カーボンニュートラル社会の実現
- ②AI・デジタル技術を活用したスマート農業の推進による、食料の生産性向上への貢献
- ③農業残さ・食品廃棄物等からの資源回収ソリューションによる、サーキュラーエコノミーの実現
- ④デジタルを活用したソリューション提供による、フードバリューチェーン全体のデータ連携基盤構築とフードロス削減への貢献

## 【関連情報】

クボタ サステナビリティ関連サイト [www.kubota.co.jp/sustainability/](http://www.kubota.co.jp/sustainability/)

クボタ 環境ビジョン [www.kubota.co.jp/sustainability/environment/vision/index.html](http://www.kubota.co.jp/sustainability/environment/vision/index.html)

## 株式会社クラダシ



株式会社クラダシは、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続的な食料システム、特に「①質・量両面にわたる食料安全保障」、「②食料消費の持続可能性」、「③農村地域の収入確保」の実現に貢献するため、フードロスをはじめとした社会課題の解決に取り組みます。

### 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

- ① 消費可能でありながら通常の流通ルートでの販売が困難な商品を買取り、社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」で販売することで、日本のフードロスを2030年までに50%削減します。
- ② フードバンク・社会貢献活動団体の支援を実現します。
- ③ 学生を地方農家へ派遣するインターンシップを推進します。

### ・社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」：

フードロス削減への賛同メーカーより協賛価格で提供を受けた商品を最大97%OFFで消費者へ販売し、売上の一部を社会貢献活動団体へと寄付する日本初・最大級の社会貢献型ショッピングサイトです。環境保護や動物保護の団体、クラダシ基金など、様々な団体を支援しています。

### 【関連情報】

- ・ KURADASHIとは：<https://www.kuradashi.jp/about>
- ・ 支援レポート：<https://www.kuradashi.jp/report>
- ・ クラダシ基金：<https://www.kuradashi.jp/fund>



## 食料システムサミット（FSS : Food Systems Summit）へのコミットメント

### Glicoグループ

Glicoグループは、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当グループは、事業を通じて人々の健康に寄与するとともに持続可能な社会の実現に貢献します。また、資源循環社会の実現に向け企業市民としての責務を果たすため、温室効果ガスの削減、持続可能な水資源の活用、持続可能な容器包装資源の活用、食品廃棄物の削減に取り組みます。

#### 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

- ① 2050年までに温室効果ガス（CO<sub>2</sub>やフロンガスなど）を100%削減します。
- ② 2050年までに水の使用量原単位を20%削減し（2013年度比）、水質汚染ゼロ化を目指します。
- ③ 2050年までにプラスチックをリサイクル原料に、紙を森林認証紙にそれぞれ100%切り替えます。
- ④ 2050年までに食品廃棄物を95%削減します。（2015年度比）

#### 【関連情報】

Glicoグループ環境ビジョン2050

<https://www.glico.com/jp/csr/about/environment/vision/>

Glicoグループ CSR REPORT 2021（ダイジェスト版）

[https://www.glico.com/assets/files/CSR\\_REPORT\\_DIGEST2021.pdf](https://www.glico.com/assets/files/CSR_REPORT_DIGEST2021.pdf)



## ケンコーマヨネーズ株式会社



ケンコーマヨネーズ株式会社は、全ての持続可能な開発目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社グループは、持続的な食料システム、特に「食料消費の持続可能性」と「環境に調和した農林水産業の推進」の実現に貢献するため、食品ロス・食品廃棄物の削減や温室効果ガス排出量の削減に取り組み、食を通じて人々の健康・幸せ作りに寄与すると共に、持続可能な社会の実現に貢献します。

### 【具体的な取組・目標】

#### ① 「食料消費の持続可能性」の実現のために

- ・ 2030年までに食品ロス・食品廃棄物の15%削減を目指します。

(2019年度対比 原単位)

- ・ アップサイクル商品の開発を推進します。

#### ② 「環境に調和した農林水産業の推進」の実現のために

- ・ 2030年までに温室効果ガス排出量の50%削減を目指します。

(2019年度対比 原単位)

- ・ 環境に配慮した資材を選択し、プラスチック使用量の削減を推進します。

### 【関連情報】

当社のサステナビリティ方針

<https://www.kenkomayo.co.jp/sustainability>



## 国分グループ本社株式会社



国分グループは、「300年間紡いだ商いを、次世代に繋げていく。私たちは食を通じて世界の人々の幸せと笑顔を創造します」をSDGsステートメントとして掲げています。全ての持続可能な成長目標の達成に向け、持続可能な食料システムへの変革のための具体的な行動を推進するために開催されるFSSへの支持を表明します。

当社は、持続的な食料システムの実現に貢献するため、流通にかかわる環境負荷低減と持続可能な消費の拡大に取り組みます。

### 【具体的な取組・目標（コミットメント）】

- ①2030年までにグループ全体のCO2排出量を2017年比30%削減し、2050年にゼロ化を目指す
- ②2030年までに、食品廃棄物量を2017年比50%削減する
- ③2030年までにサステナブルカテゴリーの売り上げを 100億円以上とする
- ④2030年までに特徴ある地域の食材や原料を生産者の顔が見え、生活者に様々な形態で届けることが可能となる仕組みを構築する

### 【関連情報】

国分グループ サステナビリティ

<https://www.kokubu.co.jp/sustainability/>



# 国分グループのサステナブルカテゴリー

国分グループは食品卸売業として、全国に「食」を届けています。国分グループの重要事項の一つ「食糧生産」では、持続可能な食糧生産を支援し、生産に関わるすべての人が適正な対価を得ることができる世界を創ることを目標に掲げています。新たに「サステナブルカテゴリー」の市場を創出し、目標達成に向け活動します。

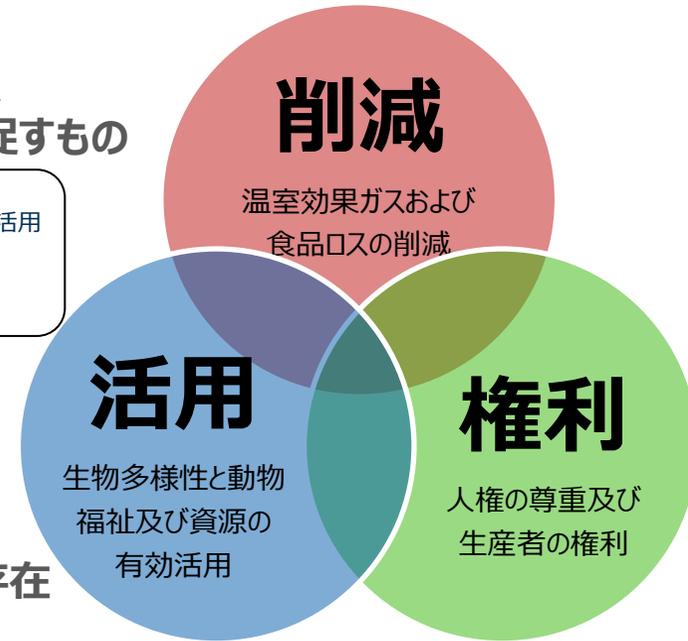
## 国分グループのサステナブルカテゴリーの定義

製品や取り組み全体が環境や社会、経済に対して継続的によい影響を与え、生産から廃棄に至るまで持続可能性の意図が理解され消費行動の変革を促すもの

### 構成要素

1. 温室効果ガス及び食品ロスの削減
2. 生物多様性と動物福祉及び資源の有効活用
3. 人権の尊重及び生産者の権利

商品群  
 ・認証品 ・代替たんぱく ・未利用資源活用  
 ・アニマルウェルフェア ・フェアトレード  
 ・環境負荷低減及び自然資源保護  
 ・寄付付き etc…



### 現状の課題

- ・SDG s に貢献したいのは企業だけではない ⇒ 生活者の方々にも多数存在
- ・現時点では店頭・様々な媒体においての情報提供は不十分



…これらの課題解決に向けて

### 国分グループの活動

- ・サステナブル商品の明確化
- ・より優れた該当商品の開発・発掘を推進
- ・情報が正しく伝わる売場や媒体づくり
- ・生活者の方々から自らの判断で商品を選べる環境を整える

### 国分グループの目標

これらの活動を通じて100億円以上に相当する新たな市場を創出する

## 国分グループのサステナブルカテゴリー商品（例）

### ■缶つまシリーズ「伊勢志摩産サザエ 水煮」

志摩市のサザエ漁法は海女漁が中心で、文化庁が認定する**日本遺産「海女（Ama）に出逢えるまち 鳥羽・志摩～素潜り漁に生きる女性たち」に認定**されています。自然資源を守る「昔ながらの伝統漁法」の海女漁\*と地域を応援し、その漁法で獲ったサザエを缶詰の原料として使用しています。



\*海女漁  
女性が素潜りでサザエなどを獲る漁法。始まりは約2,000年前まで遡り、世界でも希少な漁法です。また、海女がサザエを取る際に一つ一つ大きさを確認することで、全て獲り切ることをせず資源保全をすることができる漁でもあります。

### ■トニーズチョコロンリー



国分グループは2020年11月より、トニーズチョコロンリーの輸入代理店となり国内販売を開始しています。

Tony's Chocolonely Nederland B.V.社はカカオを始め原材料は主に**国際フェアトレード\*基準**を満たしているものを使用しており、自社商品だけでなく、世界中の全てのチョコレートが「100%**強制労働や違法な児童労働に頼らないカカオ**から作られたチョコレート」となることをミッションとし、活動を行っています。



\*フェアトレード  
...開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。



# 国分グループのフローズン・チルド流通

国分グループは流通の過程で、**フローズン・チルド（フロチル）対応**に取組み、**食品ロス削減に貢献**しています。フロチルとは、冷凍で保管・輸送された商品を解凍し、冷蔵（チルド）で販売することをいいます。この過程では冷凍での賞味期限から、冷蔵での**賞味期限・消費期限への変更が必要**となります。国分グループの物流センターでは、市販商品・業務商品を問わず汎用性の高いフロチル対応を行っています。

【製造工場】



【国分グループ三温度帯センター】



注文に応じて冷凍保管品を必要量解凍し、解凍後の消費期限もしくは賞味期限を、改めて商品に貼付

【お客様の店舗】



解凍作業が必要無く調理時間も短縮



【製造段階における負担軽減】  
冷凍することで一時的に国分グループの物流センターで保管する事が可能となり、**計画的にまとまった量を製造、出荷**することによる製造者の負担軽減や配送頻度の軽減に貢献しています。

**流通過程での食品ロス削減に貢献**

【店舗オペレーションの負担軽減】  
必要量に応じて、解凍し出荷することで店舗での**作業軽減及びロス削減**に貢献しています。店内調理を必要とする食材の場合では、物流センターで事前に解凍して出荷することで調理時間の短縮になり、また加工度の高い食材を、解凍して出荷することで調理そのものを省く事が可能となります。

フロチル対応では、これまでは製造地が遠方かつ消費期限・賞味期限が短いため扱いが難しかった食品を取り扱い可能にし、店舗の品揃えの多様性確保とともに、製造者の想いを消費者へ繋ぎます。